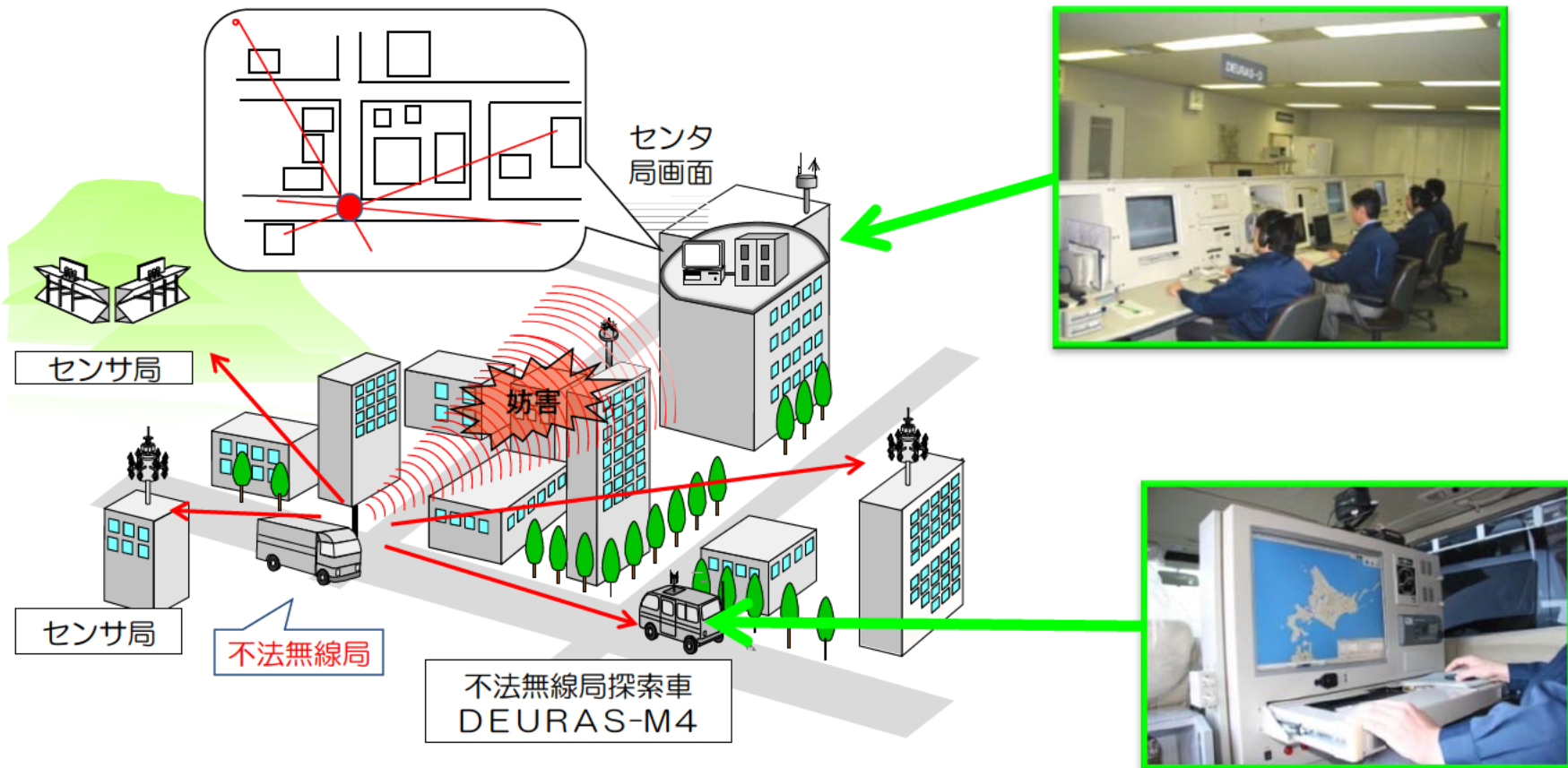


電波監視システム DEURAS (DEtect Unlicensed RAdio Stations: デューラス)の概要

当局は、道内28カ所に設置したDEURASセンサ局からのデータに基づく不法無線の発射源の迅速な探索と24時間の自動監視により、効果的な電波監視を行っています。

また、方向探知処理装置や遠隔制御装置などを搭載した不法無線局探索車(DEURAS-M)を配備し、機動力を生かしての不法無線局等の探査を行っています。

平成22年6月に札幌市で開催されたAPEC貿易担当大臣会合では、当局に「重要無線通信妨害対策実施本部」を設置し、開催期間前日から終了日までの間、連続有人監視体制による電波監視を強化し、重要無線通信妨害への即応体制を確保した結果、重要無線通信等への電波妨害の発生はありませんでした。



「重要無線通信」に対する妨害等の主な事例について

【事例1】 アマチュア無線機メーカーの製造不具合により、救急用無線局に妨害

消防の救急用無線に混信を受けるとの申告により調査した結果、アマチュア無線の通信を受信したが通信の相手方の電波が受信出来ないため、無線機からの不要電波の発射と断定し探查を実施。ダンプカーに設置していたメーカー製造のアマチュア無線機の不具合であることが判明したため、当該無線機を改修するよう指導。

【事例2】 音楽プレーヤー用FMトランスミッターによる消防用無線局に妨害

消防用無線に混信を受けるとの申告により調査した結果、消防署近傍の駐車場の車両に搭載した音楽プレーヤー用FMトランスミッターからの2倍の高調波の電波を補足した。FMトランスミッターの使用中止を要請・指導。

【事例3】 ビル解体用建設機械のエアコンの不具合により、航空用無線に妨害の恐れ

航空用無線の監視中に不要電波を確認し調査した結果、ビル解体中の大型建設機械のエアコンの制御回路の不具合により電波が発射したものと確認。建設機器の製造メーカーに通知、メーカーで輸出した物も含め建設機械を点検修理することとなった。